

2020年3月期 決算説明資料

2020年5月14日
株式会社加藤製作所



I. 2020年3月期 連結決算概要

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 連結業績サマリー | P.2 |
| 2. 連結業績推移 | P.3-P.4 |
| 3. 連結損益計算書 | P.5 |
| 4. 営業利益の増減分析 | P.6 |
| 5. 連結貸借対照表 | P.7 |
| 6. 連結キャッシュ・フロー計算書 | P.8 |
| 7. 連結主要品目別売上高推移 | P.9-P.12 |
| 8. 連結仕向地別売上高推移 | P.13 |

II. 2021年3月期 連結業績予想

P.14

III. TOPICS

P.15-P.18

連結業績サマリー

- 国内売上高は、建設用クレーン・油圧ショベルともに減少
海外売上高は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で特に中国における販売が大幅に減少
- 工場移管作業に伴う一時的な生産効率の悪化、工場増設に伴う減価償却費の増加及び特別損失の計上により利益率が悪化

	前期実績 (2019年3月期)	当期実績 ※ ¹ (2020年3月期)	前年同期比 (単位：百万円) ()内は増減率
売上高	85,409	77,894	△7,515 (△8.8%)
営業利益	4,462	△282	△4,745 (-)
経常利益	4,794	△444	△5,238 (-)
親会社株主 当期純利益	3,034	△1,329	△4,364 (-)
1株当たり 配当金 (円)	中間 47.50 期末 47.50 年間 95.00	中間 15.00 期末 15.00 ※ ² 年間 30.00 ※ ²	

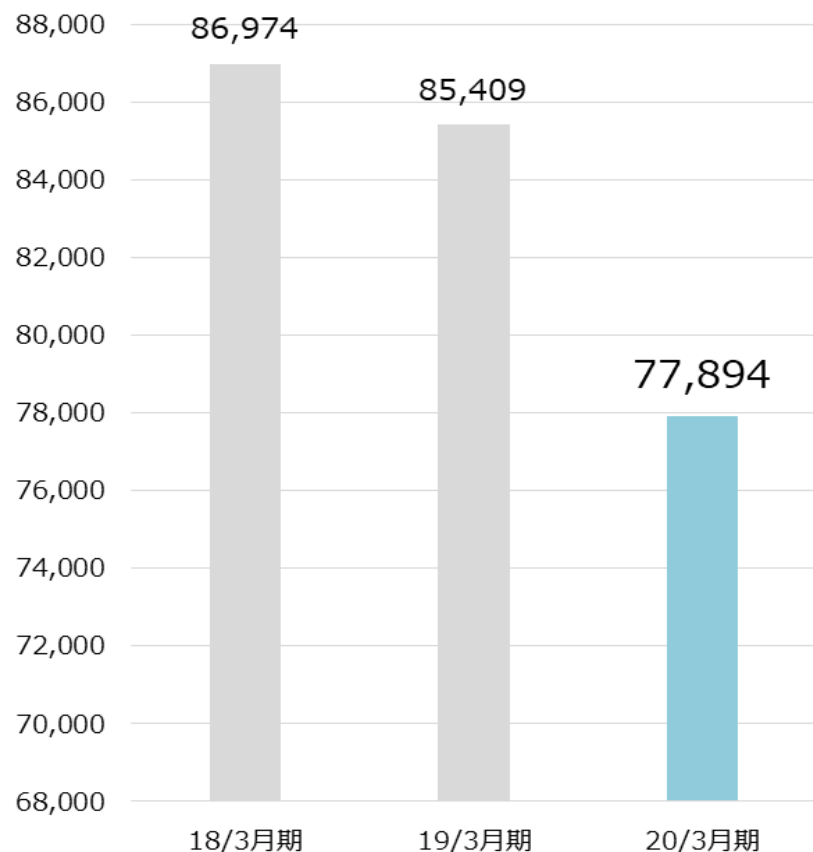
※¹ 非連結子会社であったKATO IMER S.p.A.及びKATO EUROPE B.V.及びICOMAC,INC.は当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

また、持分法非適用関連会社であったCOMPACT EXCAVATOR SALES,LLCを、当連結会計年度より持分法適用の範囲に含めております。

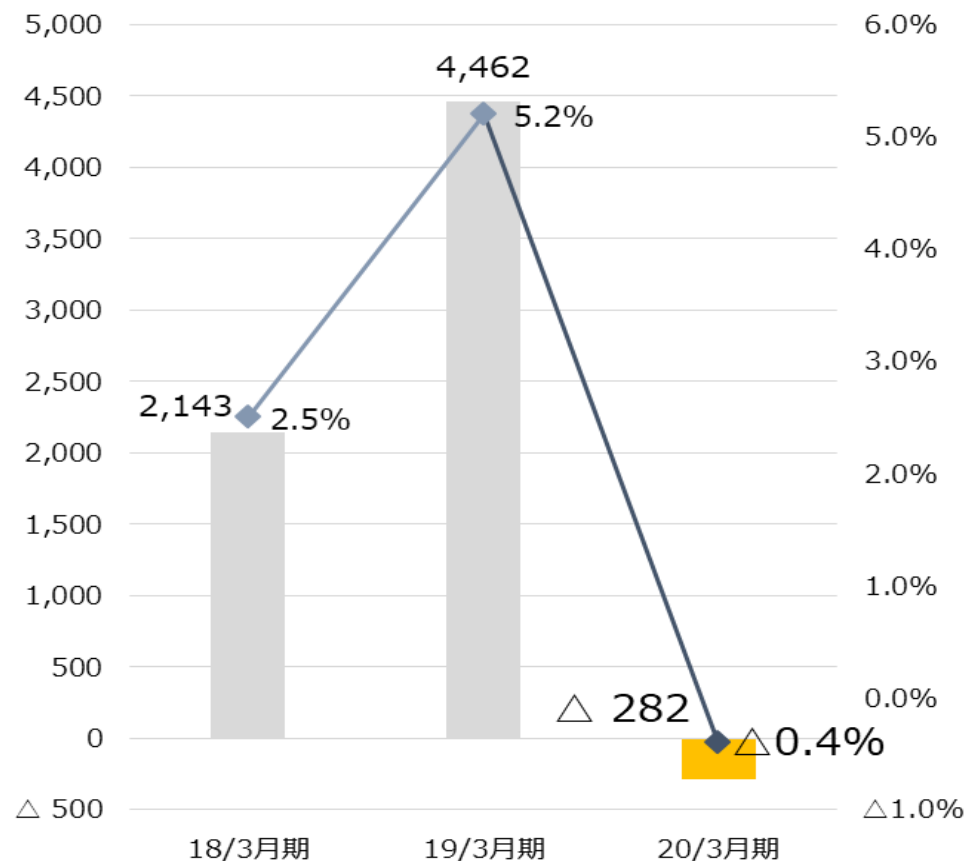
※² 2020年3月期の1株当たり期末・年間配当金は、2020年6月26日開催予定の第121回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

(単位：百万円)

売上高

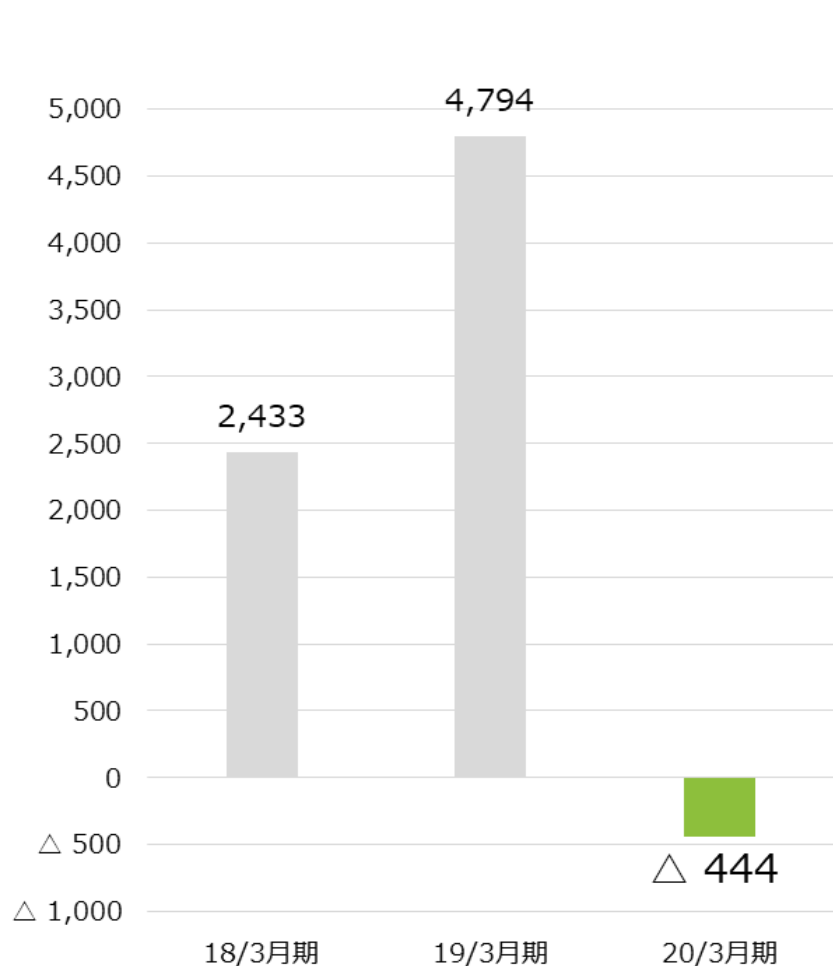


営業利益・営業利益率

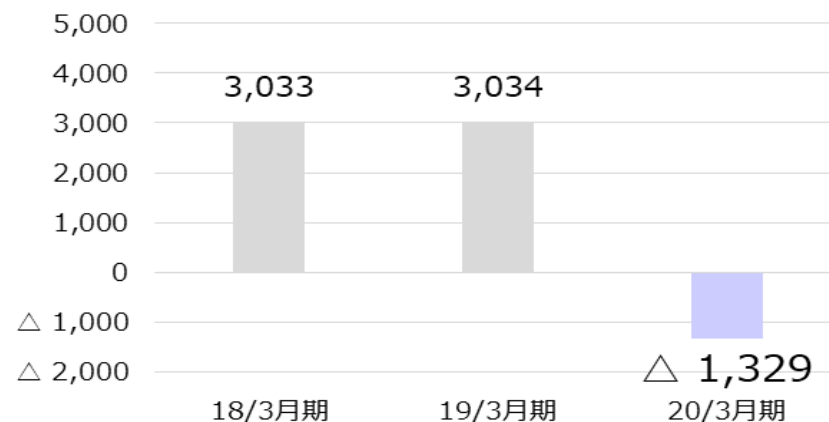


(単位：百万円)

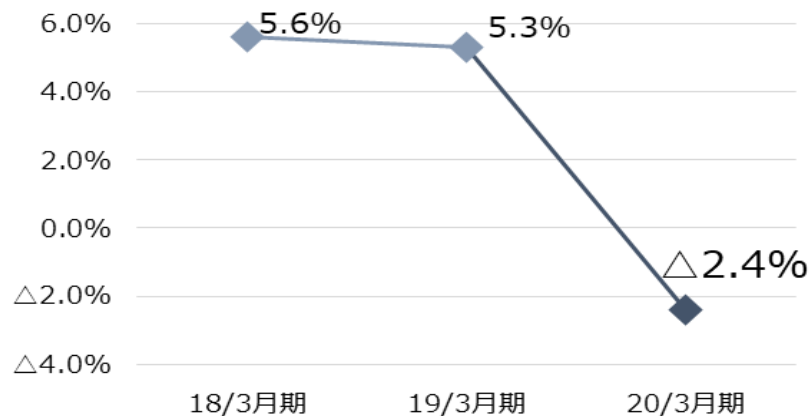
経常利益



親会社株主当期純利益



ROE (自己資本利益率)



連結損益計算書

	2019年3月期		2020年3月期		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	85,409	100.0%	77,894	100.0%	△ 7,515	△ 8.8%
売上原価	72,148	84.5%	68,607	88.1%	△ 3,541	△ 4.9%
売上総利益	13,261	15.5%	9,287	11.9%	△ 3,974	△ 30.0%
販管費	8,798	10.3%	9,569	12.3%	771	8.8%
営業利益	4,462	5.2%	△ 282	△ 0.4%	△ 4,745	-
営業外損益	332	0.4%	△ 161	△ 0.2%	△ 493	-
経常利益	4,794	5.6%	△ 444	△ 0.6%	△ 5,238	-
特別損益	104	0.1%	△ 786	△ 1.0%	△ 890	-
税前利益	4,899	5.7%	△ 1,230	△ 1.6%	△ 6,129	-
法人税等	1,759	2.1%	89	0.1%	△ 1,669	△ 94.9%
非支配株主当期純利益	105	0.1%	9	0.0%	△ 95	△ 90.6%
親会社株主当期純利益	3,034	3.6%	△ 1,329	△ 1.7%	△ 4,364	-
ROE		5.3%		△ 2.4%		△ 7.7ポイント

➤ 売上高

- 連結売上高は、前年同期比で8.8%減少
- 海外売上高比率は、前年同期32.0%から28.2%へ減少

➤ 営業外損益

- 当期の営業外収益は、493百万円（前年同期761百万円）
- 営業外費用は、為替差損194百万円を計上したため、654百万円（前年同期429百万円）

➤ 販管費

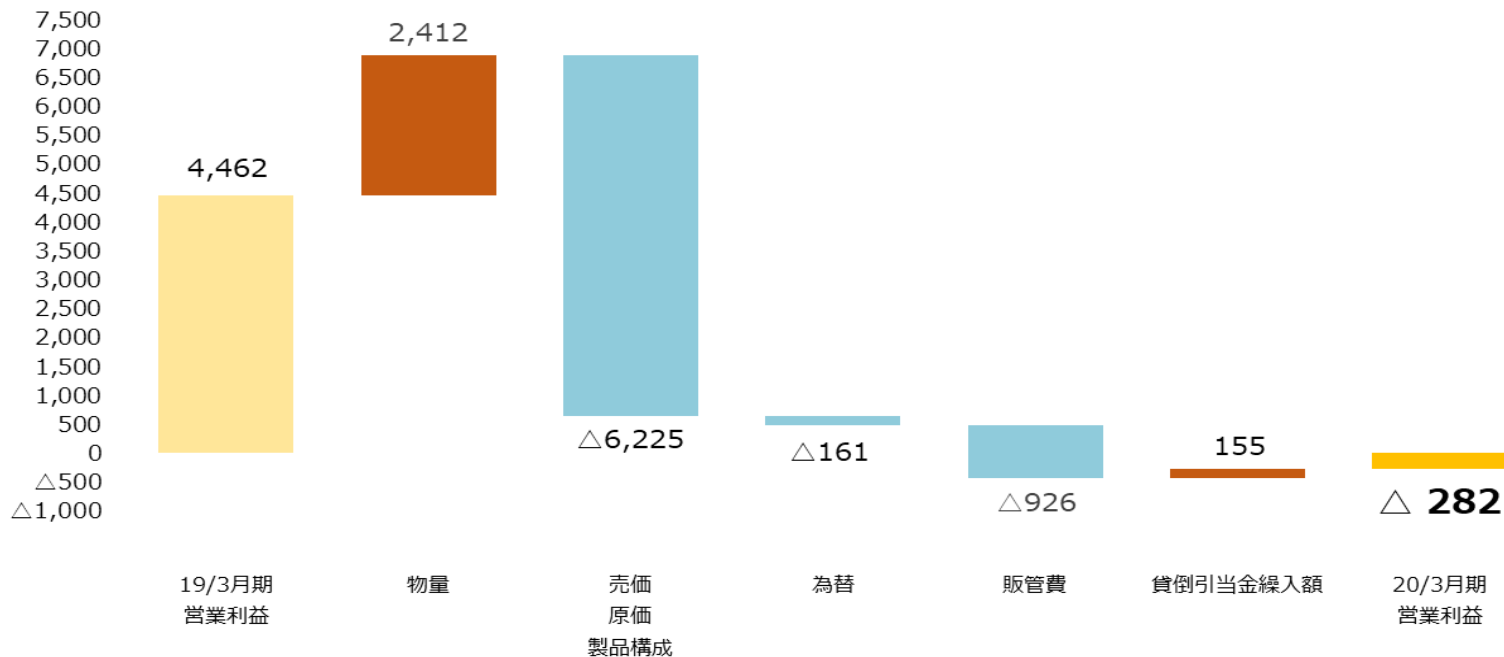
- 展示会等の販売促進費用及び工場増設に伴う減価償却費の増加と、新規3社連結した影響により771百万円増加

➤ 経常利益及び親会社株主当期純利益

- 経常利益は、前年同期比5,238百万円減少
- 当期の特別利益は、土地売却益207百万円を計上したため、230百万円（前年同期177百万円）
- 当期の特別損失は、工場移転費用506百万円及び連結子会社による減損損失412百万円を計上したことにより、1,016百万円（前年同期73百万円）
- 親会社株主当期純利益は、前年同期比4,364百万円減少

営業利益の増減分析

(単位：百万円)



▶ 営業利益増減要因

- ・物量の増加により
- ・売価/原価/製品構成の変動により
- ・為替の変動により
- ・販管費の増加により
- ・貸倒引当金繰入額の減少により

2,412百万円
△6,225百万円
△161百万円
△926百万円
155百万円

▶ △4,745百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

			2019年3月期		2020年3月期		前期末比
			金額	比率	金額	比率	増減額
資産の部	流動資産	手許資金	14,255	11.4%	11,101	8.9%	△ 3,154
		売上債権	42,917	34.2%	39,284	31.3%	△ 3,633
		たな卸資産	42,556	33.9%	45,291	36.1%	2,735
		その他	△ 1,733	△1.4%	△ 2,270	△1.8%	△ 537
		流動資産計	97,995	78.0%	93,406	74.5%	△ 4,589
	固定資産	有形固定資産	21,243	16.9%	25,142	20.1%	3,898
		無形固定資産	756	0.6%	467	0.4%	△ 288
		投資その他の資産	5,560	4.4%	6,376	5.1%	816
		固定資産計	27,561	22.0%	31,987	25.5%	4,426
	資産合計		125,557	100.0%	125,393	100.0%	△ 163
負債・純資産の部	負債	仕入債務	25,090	20.0%	21,104	16.8%	△ 3,985
		有利子負債	34,889	27.8%	43,357	34.6%	8,468
		その他	7,080	5.6%	5,362	4.3%	△ 1,718
		負債計	67,060	53.4%	69,824	55.7%	2,764
	純資産	利益剰余金	45,480	36.2%	43,539	34.7%	△ 1,940
		評価換算差額等	1,980	1.6%	1,010	0.8%	△ 969
		その他	11,036	8.8%	11,019	8.8%	△ 17
		純資産計	58,496	46.6%	55,569	44.3%	△ 2,927
	負債・純資産計		125,557	100.0%	125,393	100.0%	△ 163

▶ 売上債権の減少

42,917百万円 → 39,284百万円
→ 売上債権回転期間は0.7日悪化
(19/3月期 : 183.4日
20/3月期 : 184.1日)
→ 新規連結により2,319百万円増加

▶ たな卸資産の増加

42,556百万円 → 45,291百万円
→ たな卸資産回転期間は30.3日悪化
(19/3月期 : 181.9日
20/3月期 : 212.2日)
→ 新規連結により1,422百万円増加

▶ 有利子負債の増加

34,889百万円 → 43,357百万円
→ 生産体制再編に伴う工場増設
→ 新規連結により2,201百万円増加

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

		2019年3月期	2020年3月期
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	4,899	△ 1,230
	減価償却費	1,532	2,103
	売上債権増減額	3,403	4,245
	たな卸資産増減額	△ 8,667	△ 2,359
	仕入債務増減額	1,308	△ 5,067
	その他	△ 1,593	207
	営業キャッシュフロー計	882	△ 2,100
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 5,670	△ 6,530
	その他	463	△ 31
	投資キャッシュフロー計	△ 5,206	△ 6,562
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	1,519	6,284
	その他	△ 954	△ 655
	財務キャッシュフロー計	565	5,629
増減額	換算差額	△ 41	△ 219
	増減額計	△ 3,799	△ 3,252
現金及び現金同等物の期首残高		18,055	14,255
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		-	98
現金及び現金同等物の期末残高		14,255	11,101
有利子負債残高		34,889	43,357

- **固定資産の取得**
→ 新工場建設及び既存工場の増設による支出
- **有利子負債の増加**
→ 工場建設資金及び生産設備資金として借入

連結主要品目別売上高推移

(単位：百万円)

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	45,418	52.2%	44,241	51.8%	42,667	54.8%	△ 1,573	△3.6%
海外売上高	7,068	8.1%	7,587	8.9%	5,145	6.6%	△ 2,441	△32.2%
計	52,487	60.3%	51,828	60.7%	47,813	61.4%	△ 4,014	△7.7%
油圧ショベル等								
国内売上高	14,689	16.9%	12,509	14.6%	12,244	15.7%	△ 265	△2.1%
海外売上高	18,132	20.8%	19,630	23.0%	16,785	21.6%	△ 2,844	△14.5%
計	32,821	37.7%	32,139	37.6%	29,029	37.3%	△ 3,110	△9.7%
その他								
国内売上高	1,642	1.9%	1,400	1.6%	1,031	1.3%	△ 368	△26.3%
海外売上高	23	0.1%	41	0.1%	19	0.0%	△ 22	△53.9%
計	1,665	2.0%	1,441	1.7%	1,051	1.3%	△ 390	△27.1%
合計								
国内売上高合計	61,749	71.0%	58,151	68.0%	55,944	71.8%	△ 2,206	△3.8%
海外売上高合計	25,224	29.0%	27,258	32.0%	21,950	28.2%	△ 5,308	△19.5%
計	86,974	100.0%	85,409	100.0%	77,894	100.0%	△ 7,515	△8.8%

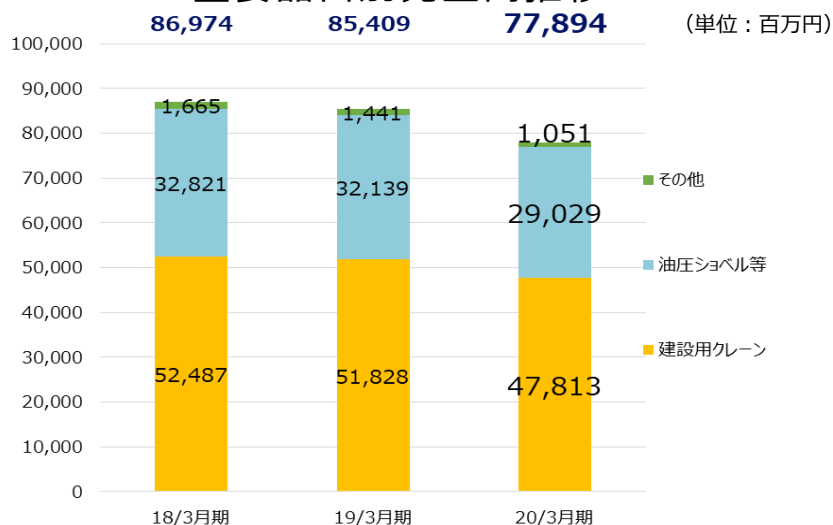
国内売上高は減少

- 建設用クレーン：販売台数は増加するも、中・大型機種
の販売が減少
- 油圧ショベル等：工場移転や生産部品の納入遅れにより
生産が遅延

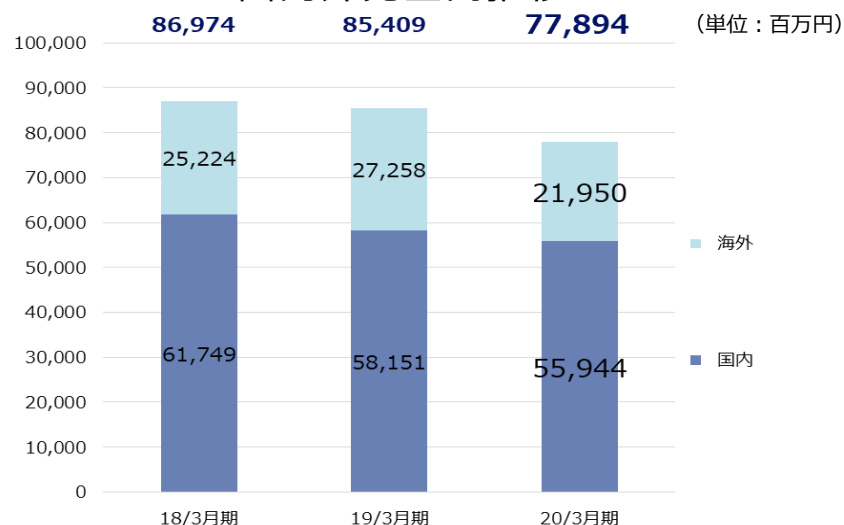
海外売上高は減少

- 建設用クレーン：アジア地域の経済低迷により、
東南アジア向けラフテレーンクレーンの
販売が減少
- 油圧ショベル等：新型コロナウイルス感染症の感染拡大に
より、中国の春節明け需要を取り込めず
販売が減少

主要品目別売上高推移



国内外売上高推移



連結主要品目別売上高推移（建設用クレーン）



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け (4.9t~80t 7機種)
- 国外向け (13t~70t 8機種)



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け (110t~400t 5機種)
- 国外向け (130t 1機種)



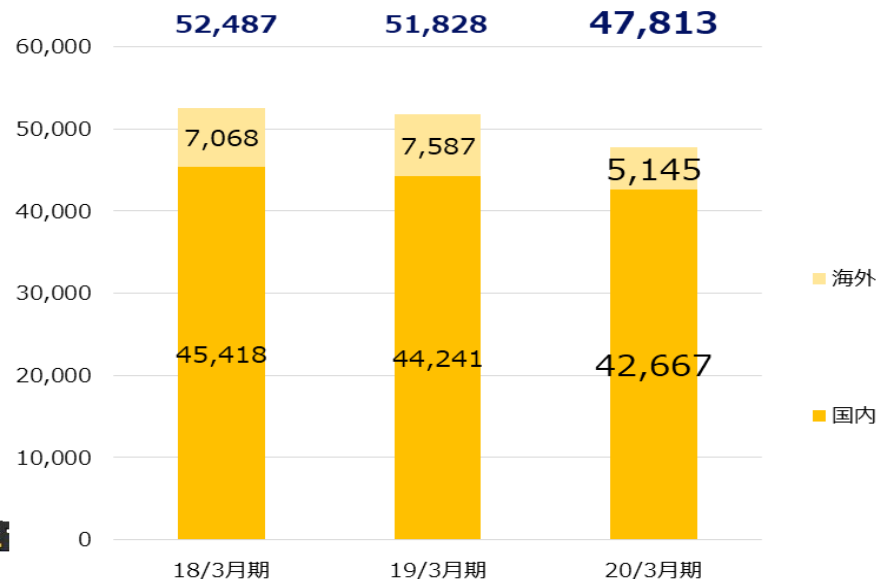
クローラクレーン

- ラチスブームは組み合わせにより多様な現場に対応可能
- テレスコブームはブーム伸縮により早いセットアップが可能
- 国内向け (50t~200t 6機種)
- 国外向け (55t~300t 7機種)



売上高推移

(単位：百万円)



▶ 国内

→ 構造規格の変更による製造規制に伴い、旧規格適合機種の駆け込み需要により販売台数は増加するも、小型機種の販売が中心となったため、売上高は1,573百万円の減少

▶ 海外

→ 中国経済の低迷の影響が、アジア地域全般の経済にも影響を与えたため需要が減少し、売上高は2,441百万円の減少

【主要製品紹介】

油圧ショベル

- ・ クローラ式走行部を有する掘削機械
- ・ 不特定の場所を自走できる
- ・ 頑丈で操作性が良い
- ・ 国内向け（8t～30t 6機種）
- ・ 国外向け（8t～38t 12機種）



ミニショベル

- ・ 小型の油圧ショベル
- ・ 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け（0.9t～8t 16機種）
- ・ 国外向け（0.9t～13t 17機種）



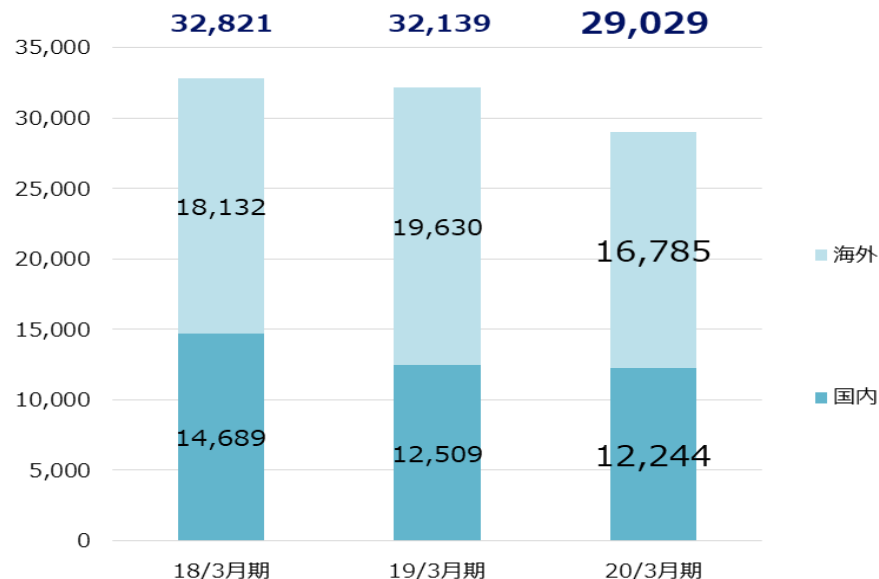
クローラキャリア

- ・ 不特定の場所を自走できる運搬機械
- ・ 作業効率が良く多彩な現場で活用可能
- ・ 国内向け（3.7t～11t 6機種）
- ・ 国外向け（3.7t～11t 4機種）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 国内

→ 排ガス規制前駆け込み需要の反動減がなくなるも、工場移転や生産部品の納入遅れから一部製品の生産の遅延から、売上高は265百万円の微減

➤ 海外

→ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中国での春節明け需要が取り込めず、売上高は2,844百万円の減少

【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（2機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（9機種）
- 国外向け（個別対応）



スノースイーパ

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



（単位：百万円）

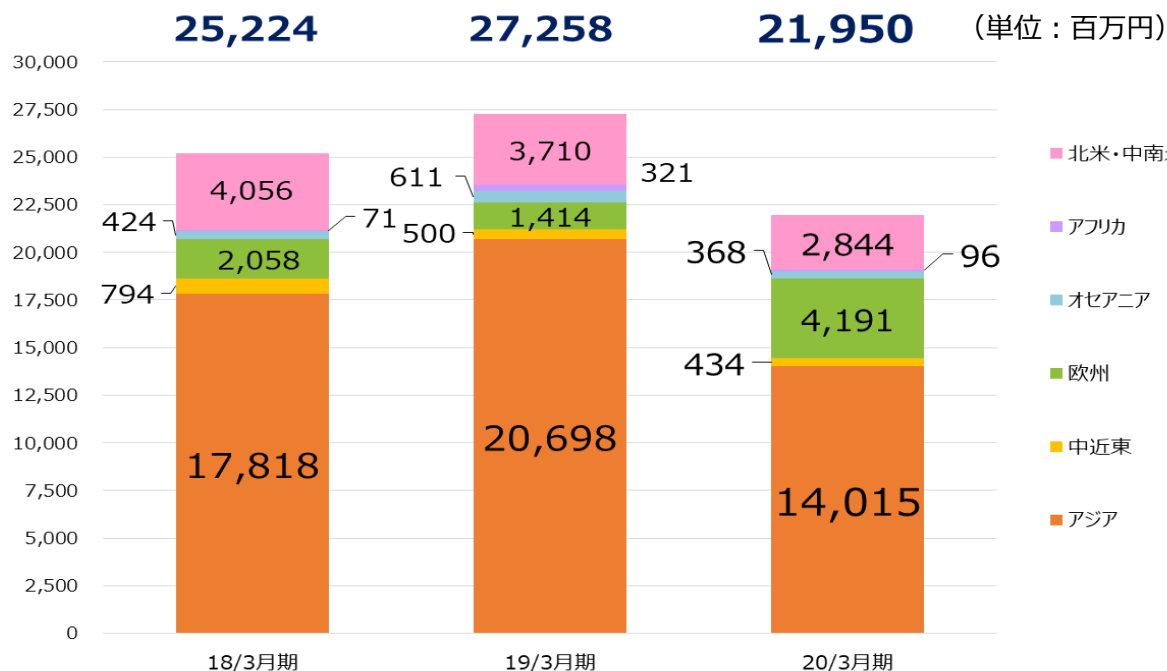
売上高推移



▶ 売上高の減少

→受注減少により売上高は390百万円の減少

連結仕向地別売上高推移（日本除く）



▶ アジア向け販売の減少

→新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中国の春節明け需要を取り込めず、売上高が大幅に減少

▶ 欧州向け販売の増加

→在欧州子会社を連結範囲に加えたことにより、売上高が増加

(単位：百万円)

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	17,818	70.6%	20,698	75.9%	14,015	63.9%	△ 6,683	△32.3%	18.0%
中近東	794	3.2%	500	1.8%	434	2.0%	△ 66	△13.3%	0.6%
欧州	2,058	8.2%	1,414	5.2%	4,191	19.1%	2,776	196.2%	5.4%
オセアニア	424	1.7%	611	2.2%	368	1.7%	△ 243	△39.8%	0.5%
アフリカ	71	0.3%	321	1.2%	96	0.4%	△ 225	△69.9%	0.1%
北米・中南米	4,056	16.1%	3,710	13.6%	2,844	13.0%	△ 866	△23.3%	3.7%
海外売上高合計	25,224	100.0%	27,258	100.0%	21,950	100.0%	△ 5,308	△19.5%	28.2%

2021年3月期 連結業績予想

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を合理的に算定することが困難であるため、業績予想は未定とさせていただきます。
今後、算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

		2020年3月期		2021年3月期(予想)	
		金額	比率	金額	増減率
売上高		77,894	100.0%	—	—
国内売上高		55,944	71.8%	—	—
海外売上高		21,950	28.2%	—	—
営業利益		△ 282	△0.4%	—	—
経常利益		△ 444	△0.6%	—	—
親会社株主当期純利益		△ 1,329	△1.7%	—	—
		2020年3月期		2021年3月期(予想)	
1株当たり 配当金	中間		15.00円	—	—
	期末		15.00円*	—	—
	年間		30.00円*	—	—
設備投資額			6,530	—	—

(単位：百万円)

*2020年3月期の1株当たりの期末・年間配当金は、2020年6月26日開催予定の第121回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

➤ CCH550T 新発売

業界No.1の安全性と環境に優しい
テレスコピックboom式クローラーを目指す

～2019年6月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年(平成26年)基準に適合した新エンジンを搭載
- ✓ パワフルな新型ウインチを搭載
- ✓ 多彩な脱着機構で輸送時の利便性UP、最軽量輸送状態で18.8tを実現
- ✓ 安全性を高める広い視野、長時間作業を支える高機能・快適キャビン
- ✓ 新型モーメントリミッター (ML-C3型) を搭載
- ✓ 疲れ知らずの操作ポジション



➤ HD820-7 MC仕様 新発売

低燃費で力強い作業性と抜群の操作性で作業効率の大幅アップを図る

～2019年9月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年(平成26年)基準に適合した新エンジンを搭載
- ✓ 3Dマシンコントロール機能・3Dマシンガイダンス機能は、国土交通省が推進するi-Constructionに対応
- ✓ MC専用10インチカラーモニターを搭載し、施工の際、モニターの良好な視認性を確保
- ✓ MC用トリガースイッチにより、万一の時の安全性に配慮



➤ KA-1100R 新発売

業界No.1の安全性と環境に優しいオールテレーンクレーンを目指す

～2019年9月より～

- ✓ 国産初の非分解型シングルエンジン仕様のオールテレーンであり、クレーン部とキャリヤ部、ブームを分解せずに公道走行が可能
- ✓ 低騒音でクリーンなベンツ製エンジンを搭載、独自のカウンタウエイト形状やウインチ配置により旋回後端半径を短縮、SLジブを取外した状態でのブーム性能を設定するなど、多種多様な現場に対応可能
- ✓ 国産オールテレーンクレーン初のABS（アンチロックブレーキ）の搭載、電子制御リヤステアリングシステムや電気式ジョイスティックの採用など、時代に合わせた最新鋭機



➤ 常陸那珂新工場建設の概要

当社は、港湾区内での製造（完成品の組立作業等）により、大型建設機械の輸出の利便性を高めるため、茨城港常陸那珂港区に工場建設用地を取得し、2020年3月より建設を開始しました。

新工場建設により、今後のさらなる事業拡大ならびに生産及び物流の効率化を図ってまいります。

✓ 新工場の内容

名 称：株式会社加藤製作所 常陸那珂工場（仮称）

所在地：茨城県ひたちなか市大字長砂字渚163番70

敷地面積：29,312.69㎡

延床面積：約5,300㎡

日 程：建物竣工 2021年3月予定

操業開始 2021年4月予定

※完成予想図



本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
総務人事部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail: ir-kato@kato-works.co.jp